

○ ゲンノショウコ(現之証拠)

語 源

属名 *Geranium* ゲラニウムは、ギリシャ語 ゲラノス「ツル(鶴)」に由来している。これは、長くちばし状の果実をツルに例えたもの。種小名の *thunbergii* は、スウェーデン生まれの植物学者 ツュンベルク Carl Peter Thunberg(1743-1828)から。和名のゲンノショウコ(現証拠、験証拠)は、下痢止めに服用するとすぐに験(効果)が現れることから名付けられた。市場では玄草とも呼ばれている。



photo by Dalgial CC-BY-SA, from Wikimedia Commons

基 原

Geranium thunbergii ゲンノショウコ
フウロソウ科 多年生草本

薬用部分

地上部

産 地

日本各地、台湾、朝鮮半島、中国など

主な成分

タンニン(ゲラニン)、フラボノイド(クエルセチン、ケンフェリトリン、ケンフェロール、ケンフェロール-7-ラムノシド)、芳香族化合物(プレビホリン、エラグ酸、没食子酸)、アセチルコリン



主な薬効

止瀉、整腸薬。利尿、強壮薬および外用にも応用される。

主な用途

民間薬として使用されている。収斂、止瀉薬として、大腸炎などの下痢、腹痛に応用する。また健胃、整腸薬として茶剤とする。腫物、皮膚病などに煎剤を外用する。

【下痢および下痢に伴う腹痛、食あたり、慢性の胃腸病】

全草1日量20gに水600~700mlを加え、時間をかけて約2/3量になるまで煎じて、1日3回に分けて服用する。食あたり、下痢には半量にまで煎じた濃い方がよい。

【便秘気味の慢性胃腸病】

ゲンノショウコ10~12gを水500mlで10~15分とろ火で煎じたものを、茶代わりに飲む。また、瀉下作用のあるハブ茶を先に入れて煎じ、あとからゲンノショウコを10~15g入れて10分程煎じる。にきび、のぼせにも効果がある。

【慢性胃腸病および健胃整腸】 ゲンノショウコ20g、ハブ茶20gを煎じて茶代わりに服用する。

【高血圧症】

ゲンノショウコ10g、ドクダミ(十薬)10g、決明子5~10gを煎じて茶代わりに服用すれば体質改善になる。この煎じ薬は膀胱炎、子宮内膜炎(こしけ)、痔疾患にも効果がある。

文献報告

【止瀉】

ベルベリンおよびゲンノショウコの止瀉作用に関する研究

日薬理誌, 1993, 102, 101-12

【抗食中毒】

和漢薬からのA型ボツリヌス神経毒素中和物質の探索

日本食品科学工学会誌, 2004, 51, 463-6

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「漢方のくすりの事典」「日本薬草全書」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp